

目次

1. 基本方針	P1
(1) 目的	
(2) 計画の対象地域	
(3) 活動目標	
2. 新家地域の特性と予想される災害	P2
(1) 地域の特性	
(2) 防災面からみた新家地域	
(3) 海溝型地震（南海トラフ巨大地震）	
(4) 直下型地震（上町断層での地震）	
(5) 液状化可能性想定図	
(6) 津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害	
(7) 福島区の被害想定	
(8) 新家地域の被害想定	
3. 自主防災組織（災害対策本部、避難所運営委員会、町会）	P7
(1) 組織	
(2) 地域災害対策本部の組織図・役割	
(3) 避難所運営委員会の組織図・役割	
(4) 町会の自主防災組織図・役割	
(5) 避難所開設の準備	
4. 自主防災組織および個人の日頃の取り組みと発災時の行動	P10
(1) 日頃の取り組み	
(2) 災害時の取り組み	
5. 避難行動要支援者支援計画	P13
(1) 要援護者名簿を活用した支援の実施	
(2) 「避難行動要支援者名簿」の作成	
(3) 「避難行動要支援者名簿」の管理方法	
(4) 「避難支援プラン（個別計画）」の作成	
(5) 避難行動要支援者への自助の促進	
6. 災害時ボランティア	P15
7. 備蓄について	P15
8. 自主防災組織の訓練	P17
9. その他	P17
防災マップ	P18
<資料編>	P20

1. 基本方針

(1) 目的

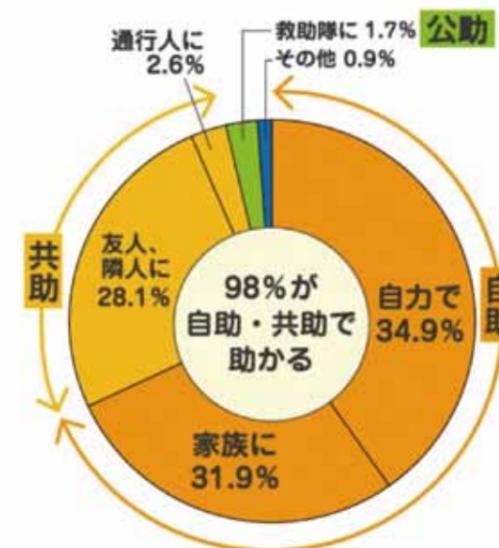
この計画は、新家地域住民の防災活動に必要な事項を定め、『自助』『共助』が一体となって、地震など災害による地域の人的、物的被害の発生及び、その拡大を防止することを目的とします。

(2) 計画の対象地域

この計画の対象地域は、新家連合（吉野4丁目の一部、5丁目、大開4丁目の一部）とします。

(3) 活動目標

地域の住民、自主防災組織の各メンバーによる『自助』『共助』を基本とした継続的な防災活動や訓練を実施し、防災力向上に努めます。



(社)日本防災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より



災害被害を軽減するには、連携が重要です。

自助：自分（家族）の命を自分（家族）で守ること
共助：地域の皆さんで互いに助け合うこと
公助：国や市の行政機関が対策を行うこと

阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助された人の98%が自助・共助で助けられました。

一方、公的機関によって生存したまま救出された人はわずか1.7%という記録が残っています。